

第3期宮前区区民会議 第9回 活力づくり部会 摘録

日 時 平成23年9月7日（水）18：00～20：00

場 所 宮前区役所4階 第3会議室

参加者 委 員 山下委員長、直本副委員長、佐藤部会長、大村委員、豊島委員、
手塚委員、藤田委員、恒川副委員長（オブザーバー）

事務局 有山企画課長、雨宮係長、白石職員
阿部コンサルタント

1 坂道アップづくりに向けたワーキンググループの計画について

- ・ 事務局より資料1今後のスケジュールを説明。
- ・ 佐藤部会長、藤田委員より資料2坂道ウォーキング：ワーキンググループ計画（案）、ワーキンググループメンバー（佐藤部会長、大村委員、藤田委員の3名）を説明。
→ ワーキンググループについて了承が得られた。

2 坂道マップを活用したイベント等の検討

- ・ 佐藤部会長、事務局よりイベント事例を紹介。

大村 目黒区と宮前区のマップはどう違うのか、宮前区のマップはどこを強調するのかを本当はみんなで議論して肉付けしたほうがよい。

佐藤 全体会のZAMA坂道マラソンの講演を聞いてどう思ったか。

直本 イベントはやろうと思えば、3か月程度の準備期間があればできる。どの程度の規模でどこに働きかけるかによると思う。

佐藤 人やコストの問題もある。

直本 主催者がどこになるかでも全く違う。ZAMA坂道マラソンの場合は1団体がやっているの、そこの考え方のみ。例えば、区が主催になるといろいろな部署が関わり、その部署ごとに様々な考え方がある。

藤田 ZAMA坂道マラソンは交通規制がないコース。規制がなければ準備期間があまりなくてもできる。宮前区の場合、マラソンだと大変だが、ウォーキングであれば交通規制の問題は少ないと思う。

佐藤 参加人数が多すぎると、宮前区の場合、細い道路が多く通れないこともある。コース設定は重要。

東京都ウォークイベントは1日かけて好きな時間にできるのか。

区 朝から夕方までの時間帯の中で、コースを歩くことができる。

佐藤 とても参加しやすいと思う。

藤田 ある時間に集合し歩く方法と一定時間の間を区切ってスタートし、戻ってきてもらう方法の2通りがある。

直本 後者の方が方法として良いのではないか。

藤田 マップで設定する6コースをそのままウォーキング大会には使えない。集合場所や解散場所を考えていないので、イベントは別にしたほうがよい。

直本 マップで設定するコースは活用したほうがよい。マップとイベントが全く関係な

第3期宮前区区民会議 第9回 活力づくり部会 摘録

いのは困る。コースとの関連はもたせたい。

大村 町内会にシニアのウォーキングクラブがある。それを利用して情報を集めたり、コース作成をお願いしても良い。

山下 所属する町内会にウォーキングサークルがあり、約50名の登録がある。いつも参加するのはその半数。都内を歩くこともあるが、都内は平坦である。それと比較すると、宮前区は坂道があって面白い。

佐藤 別の会議で子供たちに菅生の特徴を聞いたら、坂道と答えていた。子供たちにも坂道を楽しいものという感覚をもってもらい、愛着をもってもらう必要がある。

直本 坂道は生活していると大変だが、歩こうと思うときは坂道があると面白い。

山下 ウォーキング大会というよりはウォーキングを楽しむ会という感覚か。

藤田 大会にしたほうがよいのではないか。

直本 200～300人の参加は想定したい。

藤田 大会と銘打ったら、少なくとも100人以上の参加者を設定してはどうか。

佐藤 区地域振興課でやっているウォーキングの参加者は何人くらいか。

区 まちづくり協議会のイベントは定員があるが、それ以外は定員がない。

佐藤 子どもたちの安全を守るためには、どれくらいのスタッフがいるのか。

区 子どもがいるとスタッフが多い。年配者の場合はそんなにいない。町内会に協力を求めることも考えられる。

佐藤 参加者の募集はいつでもできるが、安全性を考えると、実際どれくらいスタッフがいたら開催できるのか。冒険あそび場で参加を呼びかけても、集まりが悪い。実際楽しそう、良いことと分かっているけど、実行委員となると人が集まらない。

藤田 いろんな大会をみると、核になる団体が必ずひとついる。

佐藤 まちづくり協議会でも何かやっているか。

藤田 10月と12月に30人程度参加のイベントを予定しており、12:30～15:30まで農家を回るイベントで帰りに農家からお土産がもらえる。

佐藤 宮前区はウォーキング熱が高い前提で捉えた方が良いのか。

藤田 ないと思う。

佐藤 6つのコースをつくって、日常的に歩いてもらえることも考えないといけない。ウォーキング熱がある人がたくさんいれば、はじめに大きなイベントをやってもいい。

藤田 歩く人はたくさんいる。参加者は100～200名は集まる。問題は実行委員会で、有志だけ集めるのではなく、母体になる団体が必要である。

佐藤 声をかけられているいろんなイベントに参加する人の負担が増えているという話もあった。そういうことは日ごろどう感じるか。

手塚 イベントをやってはじめて反省が出てくる。資料を見ていると、大変だなと感じるが、面白そうに思える。

佐藤 いろんな活動を通して、イベントを考えるときにどう思うか。

恒川 マラソンはもうちょっと先ではないか。ウォーキングは区役所を起点にして、年に2回程度、森林公園や北部市場など目的地を分けて、大会として取り組むことは可能だと思う。気になるのは参加者の安全の問題。まちづくり協議会のまち歩きでは、参加者に保険をかけている。取り組むにあたっては、行政に協力を求めるというよりは各種

第3期宮前区区民会議 第9回 活力づくり部会 摘録

団体を活用して、区民主体でどう行うかを考えたほうがよい。

佐藤 ウォーキングの出前講座のスタッフに協力してもらえないか。まち歩きの出前講座もある。体育指導員協会はこのようなイベントは手伝ってくれるのか。

区 体育指導員協会として受けられない。有志としては手伝ってもらえると思う。今回の提案は実行委員会形式ではなくて、提案制度を活用したいと考えている。

(事務局より資料4を説明)

直本 提案制度既存の団体が前提なのか。

区 団体の規約があって、それに基づき適正に組織・運営されている団体であればよい。

直本 イベントは新しい団体ではなく、既存団体にやってもらうということか。

区 既存団体であれば、良いと思っている。

佐藤 気をつけてほしいのは、第1期提案でこの制度を使って既存団体に呼び掛けた。その結果、反応が悪く、実行は行政が工面してやったという経過がある。

直本 今回のような提案は、既存団体が自ら企画運営するもので、区民会議の提案を既存団体が実行するのは難しいのではないか。

佐藤 落書き戦隊ケスンジャーに所属し、提案制度を2年間活用した。目的からそれなければ団体の意志に沿ってできる。

冒険広場は実行委員会形式になっていて、区の予算でやっている。行政が入ると、行政の考え方が入るので、楽しいイベントを考えるときに一定の規制がかかると思う。

佐藤 提案制度を使うときに、観光協会など既にウォーキングをやっているところをお願いすることはできるか。

区 できる。

佐藤 ウォーキング大会ほどにもなると、規模の大きな団体にやってもらわないと難しい。宮前区の中で、安全性を確保し、実行できる既存団体があるのかどうか。健康講座で6つのコースを使ってもらうようなことができないか。

区 保健所と話をした。マップができれば、ウォーキング講座で活用するという話は聞いている。

佐藤 フロントアウンでやると、幅広い年齢層が集まるのではないか。平日の午前・午後は出る人が限られる。フロントアウンで開催するウォーキング教室などに組み入れてもらいたい。

恒川 区民会議提案が行政によって行われるのはどうか。

佐藤 講座をやって、ウォーキンググループを増やしていけば、行政だけでなく、区民の関わりが増えてくると思う。

恒川 講座だけでは広がりがないと思う。

区 公園体操は自主的なグループがどんどん広がっている。行政として講座で人を育成して広がりを持たせることもできる。

恒川 フロントアウンをターゲットにしておいて、そこから枝葉に広がり、行政に関わるという形をとれば、区民会議提案の実現の仕方としては良いと思う。

区 フロントアウンはノルディックウォーキングというイベントをはじめようとしている。

第3期宮前区区民会議 第9回 活力づくり部会 摘録

それと坂道を組み合わせられないか。

佐藤 行政で使ってもらえるのも PR の方法のひとつになる。行政であれば無料ででき、それも魅力である。

恒川 区からフロントタウンにお金を出して、フロントタウンに実行してもらえればいいのかではないか。

佐藤 フロントタウンのような企業でも提案制度は使えるのか。

区 事業に公益性が認められればいい。

藤田 協働を強調したいなら、出前ウォーキング講座のスタッフの協力を得て、町内会とタイアップすればよい。

直本 町内会に協力を求めるのはいいが、結局どこが核になるのか。

区 イベントの規模や内容を提案してもらえれば、それに沿った団体を見つけていく。

直本 それに沿った団体を見つけるか、新しくつくるか。

藤田 いろんな提案全て1団体にやってもらうのか。主催は行政でもよいが、町内会などに協力してもらえればいいのかではないか。

佐藤 野川のウォーキングコースのスタート・ゴールの公園であり、公園体操をやっている。公園体操の場でウォーキングの出前講座ができるとよい。いろんな働きかけをしないと盛り上がらない。

直本 マラソンに関する内容が資料4にはっていない。難しく、すぐに開催できないかもしれないが、残しておいてほしい。坂道ウォーキングや健康講座で、健康ともつながり、区民の幅広い層に呼び掛けることができ、取り組みやすい。スタンプラリーはいい提案だが、関係機関に根回しを相当しなければいけない。そのような取り組みの中で、歩くだけでは満足できなくなってマラソンという展開になると思う。

佐藤 やりたい人が出てきたらと思う。2期の提案でも4、5つの提案をしたが、全て消化できていない。区として実行できるものから取り組む。提案しすぎても消化不良になるだけ。

藤田 最大の問題はコースと交通規制。宮前区ではマラソンは難しいのではないかと。

直本 100%できないというわけではない。

コンサル これまでの意見としてあったので、提案として残す。もしくはそれほどウォーキング大会と大きな違いがあるわけでもない。大きな違いはコースと交通規制のみ。

藤田 ZAMA 坂道マラソンは交通規制が必要なかった。宮前区は交通規制しないとできない。

豊島 会議に出ていつも思うのは、何かをやりたいというより何かをやらなきゃいけないという感覚で話をしていること。歩きたい人は既に講座などを活用し歩いている。私たちは何をしたらよいか。みんなやっていることをやろうといってもしょうがない。マラソンであれば、まだこれまでの取り組み例がないのでやる意味がある。

佐藤 マラソンをやるのであれば、どのように実行するのかという提案が必要。いろいろやりたいという提案は全く問題ないが、ただやりたいだけでは言いっぱなしになってしまう。どうしたらマラソンはできるだろうか。

直本 マラソンは全国津々浦々でやっている。実現できないのではなく、宮前区の物理的、人的制約の中でどうできるかという問題だと思う。ウォーキングの方が取り組みやすいが、既に宮前区でも取り組みがある。健康講座もやっている。それだけをやるとなると、

第3期宮前区区民会議 第9回 活力づくり部会 摘録

既存団体に少し広げてもらえればという程度になってしまう。坂道を活用したマラソン大会は全国的に少ないと思うので、将来的には実現を目指してもいいのではないかと。区民会議提案の実現が1年以内でなければいけないということであれば提案から取り下げることになると思う。

佐藤 予算的な問題はないのか。

区 良い提案であれば、事業化されて予算はついてくる。ただし、坂道のマラソンというと、高齢者は参加しづらい。若い人だけが対象になってしまう可能性がある。区民会議の提案としては、対象が限定されるのでは。健康づくりを考えると、マラソンでは体に負荷がかかりすぎる。ウォーキングを大規模に幅広い層の区民が参加できるようにしたほうがよいのではないかと。

直本 坂道というと、マラソンのイメージが浮かぶ。何度も意見として出てきていたので、マラソンを取り上げないのであれば、その理由をはっきりしておいたほうがよい。それがはっきりすれば、ウォーキングを全面に議論できる。

大村 マラソンは対象者が若手に限られる。

藤田 座間市のマラソンは距離を1.8kmから設定している。将来的にマラソンまで発展という提案であればよいと思う。

山下 参加者の想定が大変。300～500名くらいか。いずれにせよ、マラソン大会はウォーキング大会をやってみてからの話ではないか。

佐藤 将来の発展としてマラソン大会についても提案に入れる。

担い手や開催時期、開催頻度の意見があまり出ていない。開催時期や頻度によって実施する効果まで考えたほうがよい。

恒川 区民会議提案で開催頻度まで提案しなくてもよいのではないかと。資料にあるように季節に応じて歩くなどの問題提起でいいのではないかと。あんまり提案の段階で枠を決めなくてもいい。

佐藤 2期で実行団体に協力を求めても、いい返事がもらえなかったことがあり、枠を決めるのは良くないかもしれないが、実効性があり効果が得られるものでないと既存団体の取り組みと同じになってしまうと思う。

直本 たたき台ではっきりさせないといけないのは、ターゲットだと思う。ウォーキング大会ならできるだけ幅広い層に呼び掛けるなどそのあたりの方向付けをしたほうがよい。

大村 ターゲットは高齢者も含めた幅広い層を対象にしないといけないと思う。

恒川 まち歩きの参加者はだいたい高齢者。若い人は平日昼間なかなか参加できない。土日にやるとか平日ならばターゲットをどうするかといった仕分けが必要ではないか。宮前区は交通アクセスが悪い。ウォーキングをやっても、あるエリアの人は参加する人が、全く違うエリアの人は参加しないということもある。いろんな取り組みを通して、徐々に浸透させるほかないのではないかと。

佐藤 開催頻度について気になっている。6コースを1年でやるのはつらいかもしれないが、1年に1回では少ない。年に1、2回程度などこまめに開催したい。

佐藤 QRコードを活用できるといい。好きなときに取り組めるほうがよいと思う。スタンプになると、例えばお店が開いている時間でなければいけない。いろんな世代が取り組みやすいように考えたい。

第3期宮前区区民会議 第9回 活力づくり部会 摘録

藤田 マップにある全コース歩くと坂道全てを制覇できるというときに何らかの証明がないと面白くない。その証明がシール。シールを坂道に用意することはできないので、付近のこども文化センターにシールを用意しておけばいいのではないか。半年なら半年と一定の期間を区切り歩いてもらう。シール集めたら、シールを集めたマップをウォーキング大会に持ってきてもらい、抽選会に参加できたり、景品をあげられるとよい。そうしないとマップが活用されない。

直本 ある特定の写真を添付する方法もある。

恒川 写真でもスタンプでもいい。興味をもつ提案すればよい。

直本 坂道スランプリーをウォーキング大会とのつなぎに活用できるとよい。

佐藤 大会の募集の人数は限ったほうがよい。景品の準備との関係もある。

区 人数制限をかける場合は、事前申し込みになると思う。参加者の保険の問題もある。

佐藤 マップ検討時に掲載したい情報があるけど、載せすぎてもしょうがないという話があったが、大山街道のマップはインターネットにアクセスできる仕掛けもあり、アクセスすると、詳しい歴史等が紹介されるページが見られる。地参知笑部会と協力する形になると思うが、このようなPRもできる。

6 次回日程等

1) 次回部会日程

- ・ 10月21日（金）18：00～20：00 とする。

（以上）